



市民交流センター「えんぱーく」

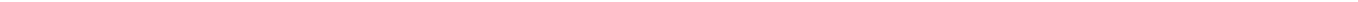
答 値下がりがあったので、契約の単品スライド条項を適用して適正に清算を行った。

問 平成17年に相次いだ不祥事は市の信用を失墜させた。それ以降も、税の二重引き落とし、みどり湖への重油大量漏出事故、えんぱーくガラスひび割れで工事のやり直し、再開発ビル贈取贈事件、まちづくり会社の解散整理など色々あるが、市の信用は回復したと言えるのか。

答 職員研修などを通して再発防止に取り組んできた。

◆もつとトップセールスを

問 最後に、メガソーラー事業や県立武道館の誘致など、塩尻の地の利を活かしたトップセールスを、市長がもつと積極的に推進するよう要望しておきたい。



日本共産党

質問者 鈴木 明子
柴田 博

持ち時間113分

くらし・福祉第一の市政実現を

◆浜岡原発停止問題

問 30年以内の震度6強以上の地震発生率が「浜岡」は84%で他の原発と比べ突出している。原発内には多量の放射性廃棄物が保管されており、停止後も危険は続く。廃炉を求めるときではないか。再生可能エネルギーとして森林資源の活用などの取り組みを。

答 危険なものではなくしたいが電力の安定供給を求める立場でもあり、国民生活への負荷等の判断も必要。浜岡の場合、人口、産業密度など事故発生時に重大な影響が想定され、さらに立地上の危険などを考慮すれば、まず止めるべき原発と思う。国としてライフスタイルの見直しを含め、方向を示すべきと考える。太陽光、木質バイオマスなど再生可能な新エネルギーへ移行

していく必要がある。

◆避難施設の点検を早急に

問 避難施設の早急な点検が必要。設備の充実や、福祉避難所での要援護者の把握システムなどはどうなっているか。

答 平常時からの点検、見直しが必要。保温性のあるアルミマットなどの設備、ディゼル発電設備設置などを検討していく。要援護者対応では行政台帳の一本化をすすめる。

◆リフォーム助成制度

問 市民要望の実現であり、提案してきた立場として歓迎するが、市民が利用しやすい制度、業者の仕事起こしに役立つものとなっているか。

答 目的を「リフォーム」とし、より幅広い活用に配慮し、提出書類も簡便化に努めた。スピーディー、スムーズな利用が可能と考える。

◆中学卒業までの窓口無料化を

問 制度の拡充を求める市民要望で前進してきた。今後も中3までの前進と共に、「一旦支払ったものが後日口座に戻る制度」から、「窓口での支払いの無い制度」へ強い要望が上がっているがどうか。

答 中学卒業までの無料化は県、他市の動向を見ながら進めていく。平成21年開催の長野県福祉医療費給付事業検討



秩父市の「ちちぶバイオマス元気村発電所」

会で当面、窓口無料化はしないこととなっており、付加給付金、高額医療費の取り扱い、診療報酬の一部変更などで、医療機関、国保連合会などの調整が必要であり、市独自の実施はむずかしい。

◆介護保険制度見直しについて

問 今回の見直しで、介護予防・日常支援総合事業の創設が行われれば、要支援認定者などが介護保険給付から外され、生活そのものの崩壊も懸念される。市としての対応は。

答 要支援1、2などの場合、市町村、地域包括支援センターなどが、介護保険の予防給付か総合サービスかを選択することに。利用者の意思が最大限尊重され、生活の質の低下にならないよう十分配慮していく。